

第 1 回 都市づくりのグランドデザイン庁内検討委員会(平成 29 年 3 月 29 日) 議論のまとめ

1 委員長挨拶

会議の冒頭に、委員長（都市整備局技監）から以下のような発言がありました。

- 都市づくりのグランドデザインについては、昨年 9 月に東京都都市計画審議会から頂いた答申「2040 年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について」を踏まえ、2040 年代の都市像とその実現方策を示す新たな行政計画として取りまとめを進めている。
- 長期的には、東京も人口減少が見込まれ、高齢化も一層進展する一方で、幅広い分野で技術革新が見込まれる。また、2040 年代には、三環状道路の概成など、首都圏全体の交通機能が大きく改善し、人やモノの流れがより円滑になることも想定されている。
- 検討にあたっては、以下のような視点を持ち、各局の皆さまにご協力いただきたい。
- 1 点目は、都市のインフラなど既存ストックや、道路や公園といった公的空間を柔軟に活用し、その価値や質をどう高めていくことができるのかということ。
- 2 点目は、公共の力だけではなく、企業や都民など民間の力をこれまで以上に生かしていく必要があること。
- 3 点目は、ハード施策と人々の暮らしに関わる産業・経済、医療・福祉、芸術・文化などの幅広い分野が連携し、魅力ある都市空間を創り、維持管理していくかということ。
- これまでの延長線を超え、分野を横断した取組みになどついて、検討していきたい。

2 議事

1)「都市づくりのグランドデザイン行政計画（たたき台）」について

都市づくりのグランドデザインの役割、2040 年代の社会のイメージ、東京が果たすべき役割、目指すべき新しい都市像、都市づくりの方針と具体的な取組について、意見交換を行いました。

意見交換では、現在各局が取り組んでいる施策との関連性や取組みの記載の考え方などについての議論を行いました。

2)「今後の進め方」について

事務局から、「都市づくりのグランドデザイン」の策定の流れについて、5 月中旬以降を目途に素案を公表し、パブリックコメントを実施の上、8 月頃を目途に策定・公表を進めること、その中で、本委員会を検討段階に応じて実施していくことについて、説明しました。